

いちご“女峰”の平地育苗における採苗 断根及び保温開始時期について

1 試験のねらい

女峰はこれまでの主要品種麗紅より約1か月早期出荷が可能なことから、栽培が急増しつつある。そこで、女峰に適した採苗時期、断根処理の効果及び保温開始時期について明らかにするため昭和58～59年にかけて検討したので概要を報告する。

2 試験方法

- 1) 採苗時期は7月10日、20日、30日、8月10日とし、9月24日定植、10月17日保温とした。
- 2) 断根処理は8月20日から1週間おきに9月17日までの5回とした。採苗は7月17日、定植は9月27日、保温は10月7日に行った。
- 3) 保温開始時期は10月7日、24日、11月10日、12月10日、1月10日とした。採苗は7月中旬、10月保温区は9月27日に定植したが、11月以降の保温区は同じハウス内にその都度持ち込み定植し、ポリトンネルで被覆して保温開始初期約1か月は比較的高温に管理した。

3 結果及び考察

1) 採苗時期

初期生育は採苗時期の早い区ほど優れる傾向であり、開花始期は7月10日採苗が最も早かった。12～2月の初期収量は7月10日採苗が最も多収であり、次いで7月20日区であった。

2) 断根処理の効果

花芽分化は8月27日断根を除き、各区とも早まり、9月3日及び10日断根で効果が大きく、収穫期は9月3日及び10日断根区では無処理に比較して約2週間早まった。前期収量(2月末まで)は収穫期の早かった9月3日及び10日断根区が多収で、総収量も同様であった。

3) 保温開始時期

頂花房の開花日は10月7日及び24日保温ではほとんど差がなく、保温開始後36日であったが、11月10日以降は保温開始後約20日であった。えき花房の開花日は保温開始が早いほど遅く、花数は頂花房・えき花房とも保温開始が遅れるほど少なかった。葉柄長は保温開始が早い区ほどおう盛で11月10日以降より低下し始め、11月10日と12月10日間で差が大きかった。

1月までの初期収量は10月7日と24日保温開始区で大差なく、11月10日以降少なくなった。総収量は10月24日保温開始区が最も多収で、次いで10月7日保温開始区であった。

4 成果の要約

女峰の採苗時期は7月10日～20日が望ましく、断根は9月3日～10日が最も処理効果があ

り、保温開始時期は10月中旬に行うのが良いものだと考えられた。

(担当者 栃木分場 川里宏※ 赤木博 長 修)

※現野菜部

表-1 採苗時期と生育

採苗時期	葉柄長 cm		開花日 (月 日)	月別収量 (g/株)					
	30日後	90日後		12月	1月	2月	小計	3~5月	合計
7月10日	14.0	14.6	11. 14	44	135	79	258	230	488
20 "	13.3	15.2	18	23	115	94	232	213	445
30 "	13.3	15.4	18	13	120	89	222	190	412
8月10 "	12.9	16.7	18	4	124	102	230	278	508

表-2 断根時期が花芽分化及び収量におよぼす影響

処 理	花芽分化状況 (9月22日)	収 穫 始 期	月別収量 (g/株)						1 果 重 g
			12	1	2	小計	3~5月	合計	
断	8. 20 ×△△△△▲▲	12. 27	3	74	97	174	205	379	11.6
	27 ×××××△△	29	10	101	99	210	235	445	11.8
根	9. 3 ×△△△▲▲▲▲	17	25	121	107	253	265	518	11.6
	10 ××△△△▲▲	17	45	133	110	288	220	508	11.2
	17 ×△△△△▲	26	17	101	93	211	227	438	12.2
無 処 理	××××△△△△	1. 1	3	97	86	186	240	426	11.6

注 花芽分化は×未分化、△肥厚、▲分化

表-3 保温時期が生育・収量におよぼす影響

保 温 月 日	頂花房		えき花房		葉 柄 長 保温時	月別収量 (g/株)					
	開花日	花数	開花日	花数		1ヵ月	2ヵ月	12~1	2~3	4~5	計
10. 7	11. 13	26	1. 29	26	89	127	145	158	153	334	645
	24	14	20	27	68	127	138	163	213	319	695
11. 10		30	21	17	62	97	110	135	219	259	613
12. 10	1. 1	13	—	8	32	43	83	0	166	227	393
1. 10	2. 1	13	—	6	30	94	197	0	104	147	251